

一碁一会

で中日文化観光交流へ

～爛柯

八木勇先生所蔵 囲碁の道具

静岡県と浙江省囲碁交流回顧展

2020

10/20_火 — 11/6_金

10:30-17:30 土日祝日休み

入場無料

(11月6日は13:30まで)

セレモニー：10/21_水 14:00～

主催：中国文化センター、日本棋院静岡支部、静岡碁席 爛柯

後援：中華人民共和国駐日本国大使館文化部、浙江省文化観光庁、日本棋院 協力：友伝

古来、人々は囲碁を娯楽や兵法の鍛錬、あるいは一つの学問として愛してきました。囲碁は四千年ほど前に現在の形になったといえます。伝説によれば、占いに精通していたとされる堯が^{きょう}堯が發明したともいい、彼が作った囲碁もまた天地宇宙の摂理につながっているとされます。そんな神秘的な囲碁は多くの人々を惹きつけ、『奕』『棋』『手談』『方円』『橘中の楽』など数々の別称・雅称で呼ばれてきました。『爛柯』もその一つで、木こりが山中で囲碁を打つ童子たちを見かけ、ずっと傍で観戦していたら斧の柄（柯）が朽ちる（爛）ほどの時間が経っていた、という故事に由来します。

中日の囲碁交流の歴史は古く、日本伝来から千三百年以上もの間、囲碁は中日文化交流の重要な一要素として重視されてきました。明治から昭和中期ごろには呉清源をはじめ多くの中国人が日本でプロを目指し、中日関係が正常化していなかった20世紀60、70年代でも、周恩来総理や陳毅外相らの積極的な働きかけによって、定期的な交流が保たれてきたのです。

本展では、静岡と浙江省囲碁交流の歴史資料をはじめ、日本棋院静岡支部、静岡基席 爛柯、八木勇代表が所有する^{こけ}碁、碁盤、碁石などの棋具や掛け軸が多数展示されます。象嵌や蒔絵など趣向を凝らした棋具たちから、囲碁の世界がいかにも奥深く魅力的で、愛されてきたかなど、中日囲碁交流の軌跡を感じることができるでしょう。



浙江省衢州にある爛柯山
「爛柯」の由來地



瑪瑙の碁石



近江八景の碁石



家紋入り碁石



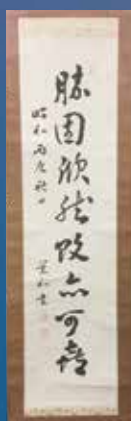
黒柿の碁石



天地柱碁盤



浙江省と静岡県の友好締結25周年記念の囲碁交流大会



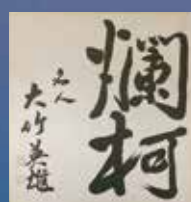
本因坊薫和書



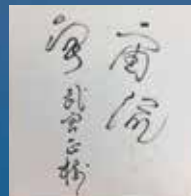
碁盤段付表



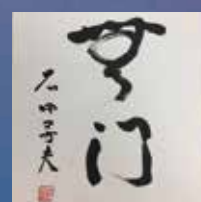
小林光一書



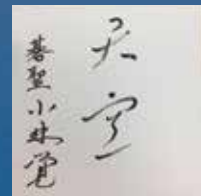
大竹英雄書



武宮正樹書



石田芳夫書



小林竜書

<https://www.ccctok.com>

【セレモニー】10/21(水)14:00～



中国文化センター
CHINA CULTURAL CENTER

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-5-1
37 森ビル 1F E-Mail: info@ccctok.com
Tel: 03-6402-8168 Fax: 03-6402-8169



【東京メトロ 日比谷線】
「虎ノ門ヒルズ駅」A2出口より徒歩2分
【東京メトロ 銀座線】
「虎ノ門駅」2番出口より徒歩7分